

神奈川県連 亀崎執行委員長あいさつ

改めまして、新年明けましておめでとうございます。

旧年中は、私ども神奈川県連の諸活動に、ご理解とご協力を賜りましたこと、重ねて感謝と御礼を申し上げます。

さて、昨年(2016年)はJR福知山線脱線事故を契機とした「運輸安全マネジメント」の制定からちょうど10年という節目の年でしたが、年明け早々、軽井沢スキーバスの転落事故、そして3月には山陽道八本松トンネルのトラックによる多重衝突事故と、凄惨な事故が相次ぎ、まさに「安全管理」がフォーカスされた年でありました。

とりわけ15名の死者を出しましたスキーバス転落事故に対しては、行政も機敏に対応をし、当月1月末には「軽井沢スキーバス事故対策検討委員会」が設置され、3月末には「中間整理」、そして都合10回の会合を重ね、6月初旬には早くも「総合対策」が策定されています。

結果、「運行管理の強化」「事業停止・事業許可取り消し処分の対象範囲の拡大」「事業許可の更新制の導入」など、運輸労連としても、従来から求めてきた諸施策が、バス業界には早々に導入をされました。

これらの施策については、行き過ぎた規制緩和の見直しに向け、トラック業界への水平展開を求めていかなければなりませんし、(株)電通の例を挙げるまでもなく、「ともすれば従来、見過ごしてきた、見過ごされてきた」長時間労働・過重労働、超勤未払などに対する取り締まりも、現実的問題として、従来以上に厳しくなっている実態にあります。その意味では本年が、正に正念場だと思っています。

1990年の規制緩和以降、破壊され続けてきた私たちの働く環境を改善し、すべての事業者が「安全」を基軸とした「働きやすく」「健全」で「将来展望の見出せる」体質への転換を、業界全体として図らなければなりません。

従来「この程度なら」と看過されていた不安全状態なり、脱法状態があったとすれば、この機会に「是正」をしなければなりませんし、とりわけ現地の職場実態を最も熟知している各構成組合の皆さんには、『現地のいかなる「綻び」をも見逃さない』取り組みの「徹底」をお願いさせて頂きたいと思っております。

2017年は、1955年に結成された「全国運輸労働組合神奈川県協議会」が発展的に解消し、1969年に現在の運輸労連神奈川県連が結成され、ちょうど50年を迎える節目の年でもあります。

私たちは決意も新たに、運輸労連50年の運動を、これからの50年を担う次世代に、正しく継承する「契機の年」となるよう更に取り組みを強めて参ります。

引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます、運輸労連神奈川県連を代表し、年頭に当たってのご挨拶に代えさせていただきます。

本年も宜しくお願い致します。

2017年01月